

きょうかん賞

「子どもとふれあう幸せ」

岩田 薫さん（京都市伏見区）

子どもをまもり育てるのは、地域住民の役割でもあると考え、「子ども見まもり隊」を志願し、登下校時の安全安心を願い、交差点に立っていつの間にか6年が経過した。

はじめは、私服のまま「お早うございます！」と朝の挨拶を交わしても、子育てから解放されて久しく、子ども達や保護者とのつながりも薄く、戸惑うことの多い毎日でした。そうした中で毎日「根気との戦い」で少しずつ挨拶が返ってくるようになり、明日への励みとなった。

子供達の通う小学校は、各学年1クラスと小規模校です。

町別の登校班は、6年生のリーダーを先頭に流れるように通り過ぎる中、一人ひとりの目線に合わせて「お早うございます！」と声をかける。

ある日、先頭が急いだので続いて走ろうとした低学年の女子が転倒、額のかすり傷に血が滲み、怖さも手伝って目を潤ませた。

私は近寄り思わず「大丈夫よ」と言いながら抱きしめると、温かみが伝わり少し安心したのか泣き止みホッとした。友達に先生のところまで同行と連絡をお願いした。

この小さな出会いが心をつなぐきっかけとなり、今朝も笑顔で登校、「痛みを気遣う」と、うなずいていた。

また、春に転校してきた高学年の男子は、声をかけても足元を見ながら通り過ぎた、「照れくさい」のかもしれないが、夏休み後やっと小声で顔を見ながら、「お早うございます」と言葉を返してくれた時は、思わず感動した。

子どもを取り巻く事件が多い世相の中で、日々交差点で子どもの安全を守れる事に感謝し、今では子ども達の笑顔が私の宝物になりました。

これからも「朝のふれあい」が続けられるように思い、夫婦で立っています。